

南地区の自然と歴史が学べる4講座を開講！



①



②



④



③



第4号

発行
生駒市図書館
市史編さん係

いこま歴史キャンパス～南地区編～カリキュラム

R6/6/9(日)

- ①講座「南生駒の歴史と見所
-江戸時代を中心に-」
元天理大学文学部教授 谷山正道 氏
- ②フィールドワーク
「南生駒の植物-見どころと探し方」
奈良教育大学特任教授 松井淳 氏

R6/9/28(土)

- ③講座「生駒山東稜空間と石造物」
生駒市文化財保護審議会委員 藤澤典彦 氏
- 講座「生駒の火祭りと文化伝承と」
生駒市文化財保護審議会委員 中谷八榮子 氏

R6/12/7(土)

- ④フィールドワーク「南生駒の中世寺社を巡る」
公益財団法人 元興寺文化財研究所
主任研究員 服部光真 氏

歴史キャンパスついに完結

令和4年度から始まった「いこま歴史キャンパス」。北地区編・中地区編に続き、南地区編を開催しました。今年度は令和6年6～12月にかけて講座やフィールドワークを実施。全4回を通して延べ160人が参加しました。

同日開催となった①②では、午前に南生駒の近世から近代への移り変わりについて学び、午後は往馬大社・竹林寺の境内で樹木等を観察しました。③では2名の講師による座学を行い、行基墓や奥山墓地、生駒の火祭りについて学習。雨天のため12月に延期になった④では、往馬大社・竹林寺・往生院でのフィールドワークを行い、特別に竹林寺の本堂内を見学することもできました。

市史編さん係では、今後も生駒の歴史などに関するイベントを開催する予定です。詳細は広報いこまちなどでお知らせします。

生駒市史史料集第2集・第4集ができました

近世・近代史料集2 史料に見る生駒の近世
～総地域・郡山藩領・旗本堀田家及び森家知行所

近世・近代史料集4
史料に見る生駒の近代～村から町、そして市へ

販売場所など詳しくは広報いこまち5月号でお知らせします。



令和6年度の動き

各分野の専門の学識経験者等が参加し、総括的な事項を協議し意見を述べる「生駒市史編さん委員会」は第6回目の会議を実施。各分科会からの令和6年度の活動報告や、いよいよ本格化する生駒市史本編の作成や、史料集の作成、イベントの開催についてなどを話し合いました。

編集会議を頻繁に実施

5つの分科会では下記の活動を実施。今後の発刊に向けて、本編や史料集に関する編集会議が各分科会だけに留まらず分科会の垣根を越えて活発に行われました。さらに今年度は自然分野による昆虫・植物・魚類などの調査も数多く実施。その他、前年度に引き続き市内の寺社文書・仏像調査や自治会長への聞き取り調査など、各分野での調査が続いています。

各分科会の活動報告

古代史分科会

3回の会議と市内窯跡や出土遺物などの分析調査を行いました。

- 5月 第3回古代史分科会
- 7月 中世史分科会との合同編集会議
- 3月 第4回古代史分科会
- 通年 古地図や史料・出土遺物・須恵器窯跡等の分析・調査、地形・地質現地調査

中世史分科会

1回の会議と生駒市に関する中世史料の検索や選定などを行いました。

- 7月 古代史分科会との合同編集会議
- 3月 宝幢寺所蔵史料調査
- 通年 中世史料調査・選定

近世史分科会

3回の会議と市内寺社での史料調査を実施しました。

- 4月 往生院・興融寺所蔵史料調査
- 5月 第5回近世史分科会
- 6月 稻蔵寺所蔵史料調査
- 7月 圓光寺所蔵史料調査
- 8月 史料集2・3に関する編集会議
大融寺所蔵史料調査
- 12月 史料集5に関する編集会議
- 2月 長命寺所蔵史料調査
向露寺所蔵史料調査
- 3月 安楽寺所蔵史料調査

近現代史分科会

複数回にわたる編集会議等と、市内各所での聞き取り調査を実施しました。

- 4月 断食療養所聞き取り調査

- 5月 第4回近現代史分科会
- 6・7・9月 史料集4に関する編集会議
- 7月 交通関係史料調査
- 9月 都市開発・学校関係史料調査
- 10月 生駒聖書学院聞き取り調査
近代・現代打合せ
- 12月 史料集6に関する編集会議
- 12・1月 史料集5に関する編集会議
- 3月 有山武兵衛邸聞き取り調査
ケーブル関係史料調査
第5回近現代史分科会
- 通年 生駒市所蔵史料調査
明治～昭和発行新聞記事調査

文化遺産・自然分科会

分科会内でそれぞれの分野に分かれ打ち合わせや調査を行いました。

- 4月 往馬大社民俗調査
往生院・興融寺仏像調査
理想郷住宅調査
断食療養所建物調査
- 5月 自然分野打合せ
- 6～8月 自治会長聞き取り調査
- 7月 圓光寺仏像調査
- 7～11月 ため池等魚類相調査
- 8月 大融寺仏像調査
長弓寺大般若会調査
- 11～3月 市内動物調査
- 2月 長命寺仏像調査
向露寺仏像調査
- 3月 安楽寺仏像調査
- 通年 歴史的建造物詳細調査
市内植物調査
市内昆虫調査
民俗分野打合せ

①講演のあとに行われた座談会の様子 ②京都大学人文科学研究所所長・教授の岩城卓二氏 ③元 安堵町歴史民俗資料館館長の橋本紀美氏 ④元 天理大学文学部教授の谷山正道氏



②



④



③



①

生駒市史関連講演会 「生駒の幕末維新」を開催

とき 令和7年2月1日(土)

ところ 図書館市民ホール

講演会「生駒の幕末維新」に、約120名の参加者が集まりました。近世史分科会の3名が講師を務め、岩城卓二氏から「大身旗本の知行所支配」と題し、旗本堀田家の役割、家督相続、幕末維新期の窮乏する財政状況などについて、橋本紀美氏から「幕末の生駒と伴林光平」と題し、伴林光平の事蹟や天誅組の変への参加、捕縛後の顛末などについて、最後に谷山正道氏から「薩摩藩・長州藩と生駒の人々」と題し、明治維新に向けて大きな役割を果たすことになった薩摩藩、長州藩の両藩と生駒の人々との関係についてお話いただきました。

講演後には参加者からの質問に答える座談会を開催。講師3名が再度登壇し、参加者の質問に回答した他、最後は生駒市史執筆に向けた想いを語っていただきました。

今後もさまざまな歴史イベントを行う予定です。詳細は広報こまちなどでお知らせします。

生駒市史史料集 第1集 好評販売中!

<掲載史料>

- ・北倭郷土誌資料
- ・北倭村風俗志調
- ・奈良県風俗誌記載事項調
<北生駒村・南生駒村>

<販売場所>

市内5図書館・室、
市役所生涯学習課
生駒ふるさとミュージアム
(休館日や閉庁日は除きます)



価格
1,500円
(税込)

B5版
全274
ページ

編集後記

乙巳の今年は、巳(み・へび)が脱皮を繰り返すことから不老不死の生き物とされ、「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」年になるそうです。この度、史料集第2集・第4集を発刊しました。この発刊を通じて、現在に至るまで再生・変化を繰り返しながら発展してきた生駒市の歩みと住民の皆様のご苦勞を思いつつ、生駒市が益々発展していくことを願っています。

市史編さんボランティアが活躍しています

約20名のボランティアの皆さんが市史編さん室での史料の整理作業、翻刻作業、講演会でのイベント運営などに取り組んでいます。

Interview : こんな活動、やっています

ボランティアに登録して約4年。古文書の翻刻や新聞の目録作成、イベントのお手伝いなどに携わっています。他のボランティアメンバーとは顔なじみになってまちで声を掛け合うことも。仕事もボランティアも遊びも私にとってはすべてが“学び”。いくつになっても学び続けたいですね。

萩原 一太さん



● 史料紹介 ●

加太越奈良道
と
暗峠

文：吉田 栄治郎

生駒市史執筆員
(近世史分科会)(公財)郡山城史跡・
柳沢文庫保存会研究員

史料名：『五街道其外分間絵図並見取絵図 加太越奈良道見取絵図 2巻之内2』

(画像提供：東京国立博物館 Image：TNM Image Archives)

徳川幕府は江戸防備を主な目的として江戸の日本橋を起点に五つの街道を定めました。これは江戸・京都間を太平洋に沿って結ぶ東海道、関東の中央部を経て近江国草津に至る中山道、徳川家康の廟所のある日光と江戸を結ぶ日光街道、下野国宇都宮で日光街道と分岐して陸奥国白河に至る奥州街道、甲斐国甲府を経て信濃国下諏訪に至る甲州街道ですが、五街道と総称されました。

また、五街道とは別にほぼ同時期に東海道から分岐して伊勢神宮に至る伊勢路や中山道から分岐する北国路、京都から九州太宰府に向かう西国街道などの脇街道も定められましたし、諸藩の管轄下の道路も整備され、江戸時代はじめには日本全国を安定的に結ぶ道路網が完成しています。

大和国(今の奈良県)には五街道こそ通っていませんでし

たが、大坂と大和を結ぶ竜田越奈良街道、京都と奈良を結ぶ京街道、和歌山と伊勢を結ぶ紀

州街道(大和街道)などの主要街道があり、生駒市域には伊勢国関宿で東海道から分岐し、伊賀国を経て大和国に至り、生駒山の鞍部の暗峠を越えて大坂に向かう加太越奈良道と呼ばれる脇街道が通っていました。

原図は東京国立博物館の所蔵で重要文化財に指定されていますが、加太越奈良道は『加太越奈良道見取絵図』と題して東京美術から刊行されています。

生駒市域の加太越奈良道は微妙に異なりますが今の国道三〇八号線とほぼ重なり、壱分町から竜田川を渡り、小瀬・萩原・大門・藤尾町を通



現在の暗峠のようす

て西畑町に至る道筋の集落や森・川・寺・神社などが丁寧に描かれています。

この街道には大和国の最後の箇所(東海道箱根峠)に比肩される難所の暗峠(西畑)があります。大坂と大和国を結ぶ最短の街道として古くから利用されました。大坂夏の陣では豊臣方がこの街道を使って大和国に入り、郡山城に攻め寄せたと伝えられます。幕末にはイギリス公使パークスも江戸に向かう際に利用しています。有名な松尾芭蕉の「菊の香にくらがり登る節句かな」という句は芭蕉の人生最後の旅に暗峠を越えた際に詠まれたものです。